

# 01



農業を通じた  
自立の可能性

GUIDANCE

## POINT 1 働きづらさを抱える方への農業の効果

農業は、生き物や自然を対象とし、様々な作業があり、適度なコミュニケーションが必要とされますので、様々な理由で働きづらさを抱える方の悩みや課題などを解消するための効果が期待されています。

## 働きづらさを抱える方への農業の効果

1	個性を活かせる仕事がある	働きづらさを抱える方の中には、得意分野と不得意分野の幅が大きいことが働きづらさの要因となっている方もいます。農業には、圃場の整備から種まき、収穫、出荷まで様々な作業があり、作業の役割分担を工夫することで、そのような方が持っている本来の力が発揮できる機会を提供できます。
2	達成感を得やすい	農業は生き物を相手にする仕事です。芽が出る、花が咲く、実がつくなど、日々の変化を間近で感じることができます。自らの働きが農作物の成長という目に見えた成果につながることによって、達成感を得ることができます。この達成感の積み重ねにより、失っていた自己肯定感の回復につながることを期待できます。
3	生活環境の改善	長期間ひきこもり状態にあった等の理由で昼夜逆転の生活になっている方にとって、日中に体を動かすことの多い農作業は、普通の生活リズムを取り戻すことに適している作業だといえます。太陽の下で働き、農作業で心地よく疲れ、夜の睡眠をしっかりとれるようになったという事例もあります。
4	コミュニケーション能力の向上	働きづらさを抱える方の中には、他者との関りに不安を感じている方もいます。農業は共同作業を行うケースが多く、他者とのやりとりが、自然と対人コミュニケーション力の向上につながるといわれています。また、農業を通じて、地域で様々な人々との関係を持つことができ、自らの居場所を持つことができます。
5	新たなキャリア形成	働きづらさを抱える方が農作業の技術を習得することで、人手不足という課題を抱える地域農業における貴重な担い手として期待される存在になります。農繁期の農家を手助けする仕事から、農業法人等での常雇、地域での新規就農まで、様々なキャリア形成の道を視野に入れることができます。



## POINT 2 地域農業への好影響

働きづらさを抱える方を農業に迎え入れることは、農業経営に対して様々な好影響が期待されるだけでなく、地域において誰もが安心して暮らすことができる共生社会の実現につながります。

## 地域農業への好影響

1	農作業の効率化	働きづらさを抱える方を受け入れるに際して、当事者の個性を引き出すために作業工程の見直しを検討することがあります。例えば、熟練度が求められる作業か否かを分類し、習熟度に応じた作業分担を工夫する取組は、農作業の効率を高めるとともに、農作業の経験が少ない方に農作業の手伝いを依頼する際のノウハウを貯めることにもなります。
2	農業経営の発展	上記のような農作業の分類・分担の見直しを行うことで、習熟度は必要ないが時間を要する農作業から解放され、自らの技術が必要となる作業や販路開拓等の営業活動に多くの時間を割くことができるようになります。結果として収量増や収益向上等、経営体としての発展につながります。
3	職場の環境改善	従前からの従業員とは異なる個性を持った仲間を職場に受け入れることによって、従業員の間で、他者を思いやる雰囲気が醸成されると言われています。より丁寧で分かりやすい指示を心掛ける、作業上での安全性を高める配慮を行う等、働きやすい職場づくりに向けた従業員の意識が高まります。
4	地域社会における農業の価値向上	働きづらさを抱える方に就業機会を提供するにあたっては、支援・福祉関係機関等の様々な方と関係を持つことになります。それらの関係機関と協議しながら、誰もが活躍できる地域社会の実現のために協働することは、地域社会における農業の価値向上につながります。
5	労働力不足の解消	農業の適性のある方の才能を見出し、地域農業の担い手として迎え入れることは、地域の抱える農業の人手不足を解消する方法のひとつとして有効です。新規就農者や有機農業を行う農業者など、労働力ニーズが高い農業者とのマッチングは特に有効です。



## COLUMN

## 農業に多様な働き方を～ゆるやか農業・ゆるやか就農のススメ～

(一社) JA共済総合研究所 主席研究員 濱田健司

「農」は多様な価値をつくり出すことができます。経済価値のほか、教育・文化・環境保全さらには医療・介護などの価値を創造します。実は「農」にはその場にいるだけで、また動植物と接することで、癒やしなどの効果を発揮する「農の福祉力」があります。さらにいろいろな農作物等の種類や地域によって様々な作業があり、多様な人々が多様な働き方や活動に参加することもできます。

特に働きづらさを抱える方にとって、無理なく、自分のペースに合わせ、かつ社会参加をしながら就労の準備を行うことができるゆるやかに就農する機会は重要となります。一方で、このような「ゆるやか農業」を通じて、多様な人々に多様な働き方を提供していくことは、「農」の新たな価値創造となるとともに、今後の農業の新たな労働力・担い手の創出にもつながります。

農業活動は農業(①)、ゆるやか農業(②)、農的活動(③)に分かれます。

したがって働きづらさを抱える方にとっては、一人ひとりの状態・環境・意志に応じて、ゆるやかに働いたり、あるいは活動に参加する機会になります。

## 就業先としての農業の魅力



高知県安芸市

農業法人での就農

安芸市の農業法人「(一社)こうち絆ファーム」に就農したAさん(32歳)

安芸市では、以前から一般農家等で生きづらさを抱えた人たちの雇用をしていた、地元農家2軒が「もっとたくさんの働きづらい人の雇用先を増やしたい」という想いから、令和元年12月に「こうち絆ファーム・TEAMあき」を立ち上げた。

現在、安芸市の農業法人「こうち絆ファーム」で働くAさんは、当時は室戸市在で就職に失敗し、数年間ひきこもり状態となっていた。何度か職に就くも、毎回、期待されている成果を達成できない自分に対して、周囲からも否定的な見方をされていると感じ、長続きしない状態だった。

そんな中、室戸市福祉事務所がなんとか働ける場所がないかと安芸福祉保健所に相談した。保健所の担当者はAさんに、生きづらさを抱えた方に理解ある農家を勧めた。「しんどかったら1時間で帰っていいよ」というスタンスで、最初は短時間の勤務に始まり、徐々に農作業の腕をあげ、通い始めて2ヵ月後には室戸市から安芸市へ移住した。その際、家探しは保健所が行い、引っ越しは農家がサポートした。その結果、通い始めて1年後には「こうち絆ファーム・TEAMあき」に通所することとなる。工賃は出来高制で、最低賃金を超えることもある。現在はフルタイムで勤務しているが、自身の体調も考慮しながら無理なく働いている。

また、Aさんの現在の目標は独立就農で、将来的には自分と同じような境遇の若者を受け入れ、指導する農家になることが夢である。さらにAさんは地域農家に農福連携の理解を促す勉強会に登壇して、自身の活動を話すといった活動も行っている。



こうち絆ファーム





